

バドミントン競技を基にしたアマチュアスポーツにおける 持続可能なビジネスモデルの考察

氏 名 宮田 和明

指導教員 古賀 桃子

バドミントン競技は、日本国内において世界トップレベルの競技力と膨大な競技人口を有しながら、興行としての市場は極めて未成熟であるという「キャズム」に直面している。現状、国内トップチームの多くは、企業の部活動である実業団形式が一般的となっている。この体制は、親企業の経営判断による休廃部リスクを常にはらむだけでなく、現場におけるビジネスアドミニストレーションの欠如を招き、自立的な経営努力を阻害する構造的要因となっている。

本研究では、他競技の先行事例や現場へのヒアリングを参考に、各チームによる現場主導の取り組みと、競技団体のガバナンス刷新を伴う構造的な改革を組み合わせたモデルを提案した。

具体的施策として、短期的には、アジア圏における圧倒的な競技人気を背景とした企業の海外プロモーション支援やインバウンド需要の取り込み、更には引退選手を雇用し、健康増進プログラムや施設運営受託といった社会的事業による収益源の多角化戦略を提示した。加えて、選手の地元への不在という課題に対し、ファンベースの考え方に基づきデジタルプラットフォームを介したエンゲージメントを強化することで、コアファンとの情緒的な結びつきを深める手法を論じた。

中長期的には、大会興行権の各チームへの委譲、練習拠点機能を兼ね備えた小規模アリーナの構築、及びアジア市場をターゲットとした新たなリーグ構想を提案した。これにより、国内市場の縮小を補い、グローバルな視点での成長戦略を描くことが可能となる。

本研究は、バドミントンチームが企業の内部組織から地域に根ざした自立した経営体へと転換することで、持続可能な発展を遂げるための具体的なロードマップを提示するものである。